



マザー・テレサ  
愛のことは

わたしたちが  
分かちあわない  
からです。

貧困をつくるの  
は神ではなく  
わたしたち人間  
です。

紅葉前線が山から平地へと下り、秋が深まってきました。あっと思う間に季節は晩秋から初冬へと移っていくことでしょう。秋の夜長、かたづけ仕事の手をしばし休めて、絵本やお話の世界を楽しんでみませんか。毎日頑張っている心と体の力を少し抜いて、生活の中に、ほんの少し“あそび”ごろのゆとりを持てるといいですね。

### 12月のご案内

日時 12月11日(金) 午前10:30~12:00 昼食

場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ: 望月鈴子へ)  
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎: 053-453-1694

会費 500円 (一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り

<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える

手遊び、リズム遊び、紙芝居: 星をうごかす少女

絵本 原作: 松田明三郎 脚色: 澤谷由美子

パネル・シアター 他 キリスト教視聴覚センター

テーマ: 小さなことに心をこめて



心に語りかける絵本

## 分かち合うよろこび

人間は実にく分かち合うことがへたで、独占欲が強い・・・と思いませんか? 国々の境界を巡って、さまざまな資源等をめぐってく分かち合いができず、あちこちで諍い、紛争、戦争が絶えず起こっています。人間以外の動物たちは、自分が生きていく上に必要以上のものを獲りませんが、人間はさまざまな資源を獲りつくそうとしてしまい、後から資源の枯渇対策に追われています。

世界とか国とかの大きな広がりではなく、自分自身についても、“ああ、欲張り、ケチ・・・”とよく思います。私は夫婦二人の高齢者です。食べ物の消費の量は減ってきています。たとえば人から食べ物の贈り物をいただきます。食べきれないと分かっている、大好きな物とか、高級品だとなかなかおすそ分けができません。その結果、消費しきれずに傷んでくるということになったりします。普段は“ケチ”をきれいに取り繕って生活している・・・?

子どもは本来ケチです。所有欲、独占欲のカタマリみたいなものです。大人もケチなのですがそれをきれいにオブラートで包みます。子どもは隠さないで思いっきり外に表すので、トラブルが生じ、奪い合いになり喧嘩になったりするので。乳幼児期の自我が芽生え始めた子どもたちは、モロぶつかりあいます。分かち合い、譲り合いが出来なかった子どもたちが、何度もそのような経験を重ねていくうちに、我慢できるようになり、忍耐できるようになっていきます。分かち合い、譲り合っている姿を目にすると、大人の心にはなにか熱いものがこみ上げてくるのではないのでしょうか。子ども自身も、相手が喜ぶのを見て嬉しくて、その心はもう“我慢”ではなく、“喜び”に変えられているのではないかと思います。“喜び”の共有がうまれ、そのようなことを、何度も繰り返し体験していくうちに、分かち合い、譲り合うことの素晴らしさを味わい、その心が本物になっていくのだと思います。

「はんぶんあげてね」のくまくん、実に気前のいいくまくんです。とちのきやまのおばあちゃんが超特大のパンを焼いて送ってくれました。お手紙にはのぞみちゃんに半分あげてねと書いてありました。半分に切ったパンにリボンをかけて、のぞみちゃんに届けに行きます。道中、もみのきやまの動物たち、たぬきさん、うさぎさん、りすさん、かえるくん、ねずみさん一家に次々出会い、それぞれ半分ずつ分けてあげて、とうとうパンはなくなってしまいました。どうしたらいいかな、くまくんは考えました。おうちにまだ半分ある、それをまた半分こすればいいんだと・・・。

核家族化、兄弟の少ない子どもが多い時代となり、一方でモノが溢れています。家族の中でがまんしたり、分け合ったりして生活することはあまりないかもしれません。しかし、子どもが成長していく過程、幼稚園・保育園、小学校、中学校・・・と成長していく中で、いろいろと分かち合う、シェアしなければならない機会がどんどんでてくるでしょう。わがままを抑え、独占欲をそぎ落として他の人と分かち合い、助け合う時、人はしみじみと喜びを味わい、幸せを感じることができるのではないかと思います。愛する子どもたちが分かち合い、助け合いに幸せを感じる人として成長してほしいと願っています。

絵本 はんぶんあげてね  
きのした あつこ さく・え  
日本キリスト教団出版局